

第 1 3 回火山噴火予知連絡会議事録

日 時 : 昭和 5 3 年 5 月 1 0 日 (水) 1 3 時 3 0 分 - 1 7 時
場 所 : 気象庁第 1 会議室
出 席 者 : 永田、横山、下鶴、行武、青木、久保寺、加茂、太田、山本 (科技厅)、伊藤 (国土庁)、
飯田 (文部省)、佐藤・井内 (国土地理院)、茂木、高橋 (博)、渡辺、田 (気象研)、
河村、神沼 (幹事)
臨 時 委 員 : 勝井 (北大)、長谷川 (東北大)、清野 (札幌管区气象台)
オブザーバー : 佐々木、三宅、久本 (以上気象庁)、田中 (気象研)
庶 務 : 大野、吉留、斉藤、小宮

〔 議事に先立ち、永田会長から委員異動について、次のとおり紹介があった。気象研究所長杉浦次郎氏から関原彊氏、気象研究所地震火山研究部長諏訪彰氏から地磁気観測所長河村謙氏、九州大学高橋良平教授から太田一也助教授。また庶務異動として火山室長野島弘氏から大野謙氏 〕

1. 第 1 2 回連絡会議事録 (案) は一部字句を訂正し、承認された。
久保寺委員から議事録の記述について発言があり、討議内容を主とする旨、確認された。

2. 最近の火山活動

2.1 有 珠 山

横 山 委 員 : 震央分布、上下変動、傾斜変化、辺長変化、高度角測定、重力精密測定等について

勝井臨時委員 : 火口原における地形変化、表面温度変化、水蒸気爆発の地点等について

清野臨時委員 : 日毎の地震回数、地震エネルギー等について

長谷川臨時委員 : 地震波放出エネルギーの推移等について

佐 藤 委 員 : 有珠山周辺の上変動

横 山 委 員 : 有珠山の噴火活動の予測に関連して (報告)

地震の放出エネルギーは exponential に減衰しており、また火口原の隆起速度とよく対応するため、終息までの総エネルギーを見積ることができると同時に、現在まで約 8 割のエネルギーを放出していることから活動は末期にさしかかっていると推定される。

清野臨時委員 : 同上補足説明

討 論

- 2 月のようなことが起こらなければという前提がある (永田会長)
- Step Up があると、どのくらい先へのびるか (久保寺委員)
- 火口原の温度は上向いている (下鶴委員)
- マグマが難渋しながら上昇しているような印象を受ける (勝井臨時委員)
- 地震放出エネルギーは昭和新山のときに比べ 1 0 ~ 1 5 倍である (清野臨時委員)

- ・ 第2期の活動は鎮静しつつあり、第3期の活動があるかどうかの問題だがかなりの確率でリセットできる（永田会長）

有珠山の火山活動についての統一見解

「有珠山は1月下旬以降地震及び地殻変動の活発化に基づいて、2月9日の統一見解では小規模な水蒸気爆発の発生の可能性を指摘したが、2月下旬から3月にかけて数回の小爆発が起こった。その後地震回数、地震エネルギーの放出率及び火口原内の隆起速度は次第に減少している。この傾向がそのまま続くならば、マグマの上昇の鈍化につながるものと考えられる。

しかし噴気地帯の拡大、小規模な水蒸気爆発などは、今後も発生する可能性があり、また地震及び地殻変動はしばらく続くので、今後とも各種観測を継続してマグマの動きを監視する」

2.2 桜島

加茂委員：活動報告と袴腰に本館新築の報告

大野（気象庁）：活動報告

田中（気象研）：1978年1月の桜島南岳火口及び周辺の地表温度異常域

井内委員代理：桜島付近の水平変動（1977-70）等について

以上を検討の結果、前回の統一見解を変えるほど異常な現象はないとの結論に達した。

2.3 南硫黄島周辺の海底火山

茂木委員：活動報告

2.4 雌阿寒岳

河村委員：電磁気調査報告

2.5 その他

河村委員：桜島地磁気観測計画について

3. 総合観測班について

渡辺委員：火山立法との関連がでてきたので前回提案の趣旨は保留する。有珠山総合観測班のあり方について意見があればお聞かせ願いたい。

4. 火山立法について

渡辺委員：昭和53年4月26日付で公布・施行となった「活動火山対策特別措置法」の改正事項の説明

永田会長：有珠山、桜島、その他の火山の当事者はこの法律に対し具体的に対処の方法を考慮されるようお願いする。

5. 噴火規模について

加茂委員：実用性を重んじると Intensity のようなものがよいが社会への影響は Potential energy, Kinetic energy, Heat, Earthq., Air wave により災害の形態が複雑になる。ただ空振による窓ガラスの被害と微気圧計振幅との関係はバラつくことからわかるように Intensity をきめることに困難がある。

永田会長：桜島の大正3年、昭和21年と現在の活動とでは、規模に相異があることは明白であり、なんらかの結論を引出すことは可能と思う。

6. 連絡会庶務報告

- 1) 委員旅費について
- 2) 火山防災業務便覧（気象庁）の発行

7. 協議事項

- 1) 次回連絡会開催期日
10月中旬ごろの適当な日を追ってとり決める。
- 2) その他
 - ・ 測審のワーキンググループについて（飯田委員代理）
 - ・ 有珠火口原の8ミリフィルム映写（下鶴委員）
 - ・ 火山噴火予知シンポジウムの講演内容が“火山”に掲載発行となった（久保寺委員）

〔17:00-17:40 記者会見 気象庁記者室〕